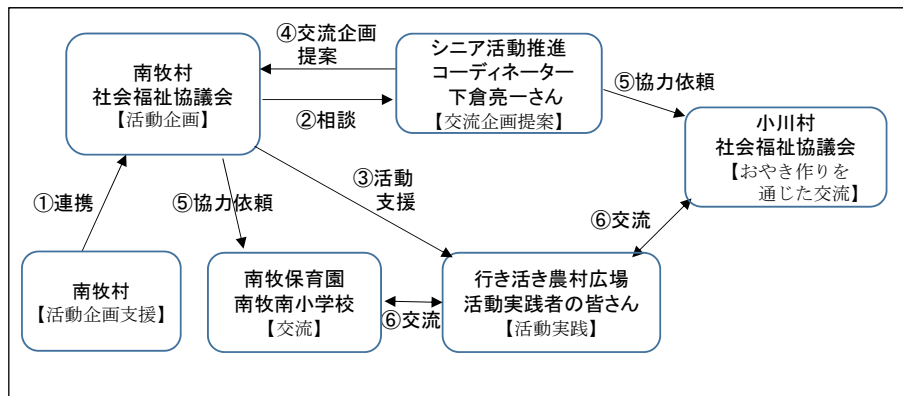


テーマ①: 中山間地における高齢者の健康と地域づくり — 南牧村の“行き活き農村広場”の実践について —

取組概要	高原野菜の栽培が盛んな南牧村において、現役を退いた高齢者が、住民同士の交流を交えながら、村が借り上げた農地を活用して農作物を栽培することで、お互いの生きがいがいづくりや健康づくりを図っている。
発表者	<ul style="list-style-type: none"> ・南牧村社会福祉協議会 松澤千恵さん ・南牧村住民課 市川幸さん ・行き活き農村広場実践者 原寛さん ・シニア活動推進コーディネーター 下倉亮一さん



1 取組の背景

- 農繁期における農家の多忙により、現役を退いた高齢者は孤立しがちな傾向がある。
- 南牧村は高原野菜の栽培が盛んな地域であり、多くの高齢者は農業に関して長年培った知識や経験を有している。



- ・ 孤立しがちな高齢者が集える場ができないか。
- ・ 孤立防止の取組に、高齢者の農業経験を活かすことができないか。

2 取組を進める上での課題・対応

- 農業経験を活かせる取組 ⇒ 村が農地を借り上げ、高齢者が主体的に農作物を栽培する「行き活き農村広場」の開設
- 高齢者が参加しやすい取組 ⇒ 村社協による農村広場への送迎
地域の子どもや他地域の高齢者との交流

3 取組の経過

- H28年度 村と村社協により、高齢者の孤立防止のための取組の検討開始
- H29年4月 下倉コーディネーターが南牧村の長寿会で講演
その際、村社協から下倉コーディネーターに対して、高齢者同士が助け合い、生き活きと活動する仕組みづくりに関して相談
- H29年4月～ 村社協による「行き活き農村広場」事業の開始
(週2回(原則月・金)10:00～14:30)
- H29年8月 南牧保育園児とジャガイモ収穫を通じて交流
(参加した高齢者約20名、園児約20名)
- H29年9月 行き活き農村広場に参加している高齢者の有志が、南牧南小学校で草取りボランティアを実施(参加者約10名)
- H29年11月 下倉コーディネーターを介して、おやき作りをテーマに、小川村社会福祉協議会の協力を得て講師を招き、高齢者同士が交流
(参加した方約50名)
- H30年1月 南牧南小学校児童との交流会(参加シニア約20名)
・ 児童の寸劇発表
・ 参加シニアから児童に対し、広場で作った手作り品をプレゼント等



おやき作りで交流

園児とジャガイモ収穫

4 成果

- 行き活き農村広場には、1回あたり10～15名程度の高齢者が参加
- 参加する高齢者は、それぞれの農業経験を活かして、お互いに教えあい、相談しあいながら、これから何をするかを自らで考え、主体的に活動している。
- 収穫した農作物は、自分たちで袋詰め、値段付けし、直売所へ出荷
- 収穫作業、ボランティア活動や交流会を通じて、子ども(保育園児、小学生)との世代間交流が図られている。
- 小川村の伝統食(おやき作り)を通じて、他地域のシニアとの交流が図られた。

5 今後の課題・見通し

- 活動を継続させていくためにはどうするか。
 - ・ 農閑期(冬期)の活動
 - ・ 高齢者を送迎するボランティア人材の育成